

法輪寺

法輪寺は元明天皇（661－721）の命によって713年に行基（668－749）によって建立されたとされる。建立の際には葛井寺と呼ばれていた。歴代天皇の祈願所であり、参籠してから宗派を開いた高僧も多くいた。829年には道昌（798－875）が虚空蔵菩薩をお祀りし、868年に正式に法輪寺と改められた。しかし、もともとの建造物は1864年に完全に破壊された後再建され、1200年以上の歴史があると言われている。

道昌は真言密教の開祖である空海（774－835）の元で修行をした。829年、空海は道昌に葛井寺で真言を1日に1万回唱えることを100日続ける虚空蔵求聞持法の修行を行うよう勧めた。道昌の修行の満願の日に明けの明星が空から降ってきて虚空蔵仏の像を法衣に焼き付けたと言われている。

この出来事から道昌は虚空蔵の像を彫り上げたといわれ、寺の本尊として祀っている。また、道昌は嵐山の渡月橋、300年以上後に現在の名前となる前には法輪寺橋と呼ばれていた橋を架けたことでも評価されている。1800年代の半ばまで橋の管理は法輪寺の僧侶が担当し、寺と橋の修繕費として通行料を徴収していた。